



有限会社 北崎農園

経営概要

所在地 : 大分県豊後高田市
従業員 : 役員5名 社員9名
外国人材10名
(特定技能2名 技能実習生8名)
栽培品目 : 春の七草8ha 白ネギ8ha
ニンニク3ha 水稲育苗42万箱



北崎農園は、大分県北部に位置する豊後高田市で、日本古来の食文化である春の七草をはじめ、白ネギ、ニンニク、水稲育苗を生産する農業法人。

特に生産量日本一を誇る春の七草は北海道から沖縄まで全国各地に出荷。主力商品の春の七草セット(生食用パック)に加え、最近では「乾燥七草」など時期を問わず食することができる加工食品も開発するなど、積極的に経営規模の拡大を図っている。

外国人材の受け入れについて

➢ 受け入れのきっかけを教えてください。

私(専務取締役:北崎昌靖氏)が若い頃、海外研修で、他国の農業の技能・技術を肌で感じた経験があり、今度は、受け入れる側の立場として技術を教えることにより、人材育成で貢献をしたいという思いを持っていましたので、10年程前に技能実習生の受け入れを開始しました。

当初は中国人2名からスタートし、現在はベトナム人6名とフィリピン人4名の計10名を受け入れています。

➢ 外国人材の業務内容や受け入れの効果はどうか。

作業全般(栽培管理、収穫、出荷作業など)に従事してもらっています。

当社では年間4~5品目を、3ヶ月に1回のローテーションで生産・出荷するため、作業内容が多岐に渡ります。特に1年目の実習生は、作業に慣れた頃に次の品目に移るので苦労をしていると思いますが、みんなよく頑張ってくれています。

また、品目が変わった際には、先輩が後輩に丁寧な指導やアドバイスをしてくれるので助かっています。

外国人材を受け入れて良かったことは、労働力が安定し、経営規模の拡大や品質の向上につながるとともに、新しい品目へ挑戦がしやすくなったことです。



七草の1つ ナズナの間引き作業中

受け入れ農家としての取組(生活環境・コミュニケーション)

➤ 外国人材の生活環境等を教えてください。

会社の寮に、10名全員が住んでいます（個室、家賃10,000円/月、光熱費別）。

共用台所には、1人1台4ドアの冷蔵庫を完備していますので、食材や飲料などの保存に重宝しているようです。

庭の空きスペースでは、自分達で野菜を楽しみながら作り、それを材料に母国料理などを作り食べています。

食材や日用品は、近隣に買えるお店が少ないので、買物の送迎を定期的に行っています。

地域との交流を深めるために、盆踊りや祭りにも参加しています。また、会社でも全員参加の社員旅行等により、アットホームな環境作りを目指しています。



会社の寮



共用台所

➤ 受け入れるにあたって心掛けていることはありますか。

仕事中は日本語で会話をすることと同国の外国人同士で固まって仕事をしないようお願いしています。これは、日本語を早く覚えてもらう目的のほか、日本人従業員や他国の外国人材と普段からコミュニケーションをとってもらうためです。

また、挨拶と返事をしっかり行うことや相手方への気遣いを忘れないようにすることを指導しています。近所の方からは、外国人はきちんと挨拶をするので気持ちが良いと褒めてくれます。

そうした日頃からの交流もあり、年末から年始の七草出荷の繁忙期には、地域から200名近い方がお手伝いに来てくれますが、その方たちとも楽しく仕事をしてきています。

また、母国の家族に対しては、大切な子どもさんを預かっているという責任感を常に持っています。ただ、心配するあまり私生活に干渉をしすぎると外国人に窮屈な思いをさせるかもしれないので、程よい距離感を保ちつつ見守ることを意識しています。

➤ 外国人材からの相談等はどのように対応していますか。

仕事に関する意見、要望等は、その都度相談を受けながら対応しています。プライベートに関する悩みなどは、外国人同士のコミュニティの中で、年長者や日本滞在の長い人が、相談に乗っているようです。

今後の展開

➤ 今後の展開や取組について教えてください。

現在、当社で受入れている外国人やこれから受入れる外国人には、当社で少しでも長い間働いてもらえるよう環境面、待遇面の整備を行いながら明るく働きやすい職場づくりに努めていきたいと思っています。

現在受け入れている特定技能の2名も元々は、当社にいた技能実習2号の修了者でした。

こうした長く働いてもらっている外国人の中から、将来はマネージャー的な存在の者が育っていくことを期待しています。



九州農政局

白ネギの圃場